

通し番号	4362
------	------

分類番号	20-44-13-04
------	-------------

(成果情報名) ヒマワリの用土量・栽植密度による切り花品質
[要約]ヒマワリを異なる用土量で栽培すると同じ施肥量・栽植密度では用土量が多い方が切り花のボリュームは大きくなる。5月から7月播種までは、栽植密度は切り花長への影響は小さいが、切り花重、花径、花茎径は栽植密度が低いと大きくなる傾向がある。8月以降は、栽植密度の影響は小さくなる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・果樹花き研究部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ブーケ・アレンジ用として需要が大きいコンパクトな切り花用ヒマワリを簡易に安定して栽培するため、用土量と栽植密度が切り花品質に与える影響を調査する。

[成果の内容・特徴]

- 1 施肥量および栽植密度が同じ場合、1ポット当たりの用土量が200mLでは125mLに比較して切り花のボリュームが大きくなる(表1)。
- 2 施肥量および栽植密度が同じ場合、用土量は上位葉の葉色に影響しない(表2)。
- 3 5月下旬から7月中旬播種まででは、栽植密度による切り花長への影響は小さいが、切り花重、花径および花茎径は栽植密度が低い方がやや大きくなる。8月中旬以降では栽植密度による切り花形質への影響は小さい(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘サンリッチマンゴー 50’での結果であり、品種により切り花品質は異なる。

[具体的データ]

表 1 用土量による切り花品質への影響

用土量	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	花径 (mm)	花茎径 (mm)
200mL/ポット	80.7	25.2	90.8	3.5
125mL/ポット	68.6	19.3	66.3	3.2
有意差 ^z	**	**	**	**

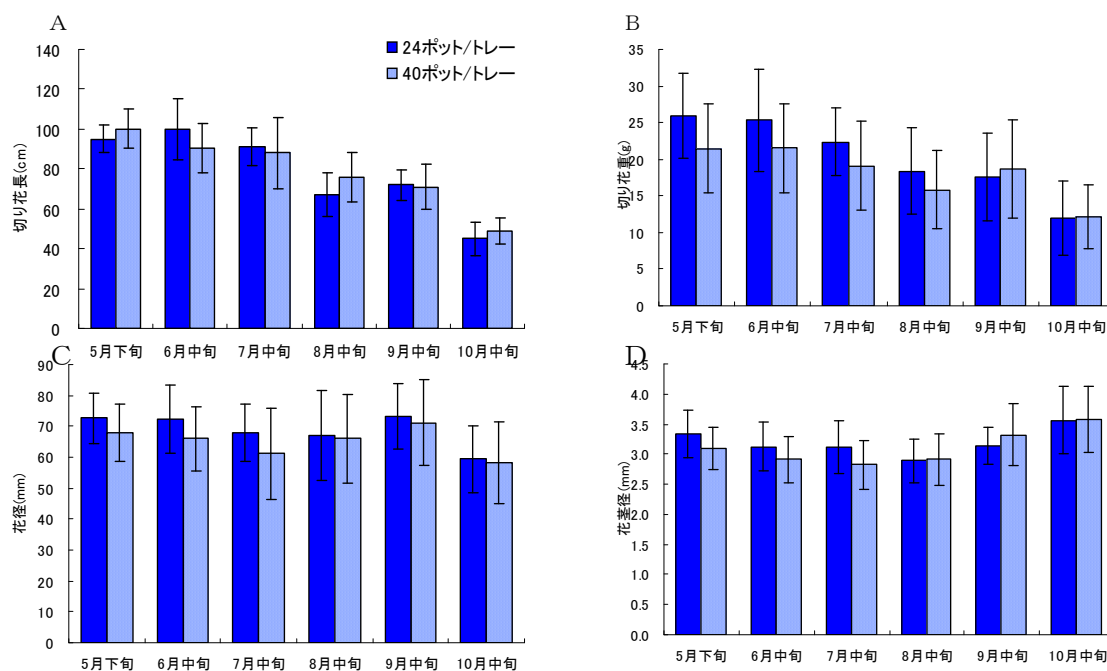
・用土は、赤土：腐葉土：ピートモス＝7:2:1（容積比）とし、基肥を1ポット当たり苦土石灰0.4g、重焼リン0.4gおよびロング424（70日タイプ）0.4gを混和して使用、総施肥量はN-0.056g/ポット、40ポット/トレー、かん水は自作簡易プールベンチを用いて1~2回/日の割合でタイマーにより給水・排水

^z t-test により**P<0.01

表 2 用土量による切り花の葉色

用土量	葉色 ^z (SPAD 値)				
	1 節	2 節	3 節	4 節	5 節
200mL/ポット	26.3	26.4	27.2	26.9	27.6
125mL/ポット	24.7	25.6	26.2	25.9	25.8
有意差 ^y	n.s	n.s	n.s	n.s	*

総施肥量はN-0.056g/ポット、40ポット/トレー、^z 1～5節は、花首から下方への葉の位置、KONICA MINOLTA 葉緑素計 SPAD-502 で測定、^y t-test により*P<0.05、n.sは有意差無し



A：切り花長、B：切り花重、C：花径、D：花茎径、グラフの縦棒は標準偏差

用土量は、約 200mL/ポット、基肥として用土 1L 当たり苦土石灰、重焼リンおよびロング 424 (70 日タイプ) を各 2g 混和

図 1 播種時期での栽植密度と切り花品質

[資料名]平成 19・20 年度試験研究成績書（花き・観賞樹）

[研究課題名]花き類の高品質・省力生産技術の開発

花き類の効率的栽培技術の開発

切り花用ヒマワリの簡易栽培技術の確立

[研究期間]平成 19～20 年度

[研究者担当名]柳下良美